

第3回意見交換会 実施結果について

議事 県立夜間中学設置に向けた今後の取組について

県立夜間中学を核とした多様な学びの場との連携の充実について、構成員から意見をいただいた。

協議題：県立夜間中学を核とした多様な学びの場との連携の充実について

- ・学校説明会を通して、広く県民や対象者の方に本校への理解を深めてもらうためには、どのような工夫や連携体制が必要か。
- ・今後、本校がよりよい教育活動を展開していくためには、どのような関係機関と連携することが考えられるか。
- また、連携を充実させるためには、どのような取組が必要か。

主な意見集約

学校説明会実施に向けた連携の充実

◆学校関係

- ・県南地域での学校説明会開催時は、学悠館高校を利用するとよい。
- ・小中学校にある「日本語教室」に通級する児童生徒の保護者にも周知するとよい。
- ・教育支援センターの機能を活用し、情報発信するとよい。

◆学び直しの支援

- ・学齢期を過ぎた不登校経験者もつながりやすいように、オンラインに説明会の内容をアーカイブで残すとよい。
- ・「多様な学び場MAP」掲載団体のネットワークがあるので活用するとよい。

◆日本語支援

- ・資料は「やさしい日本語」、多言語で、シンプルな表現で作成するとよい。
- ・地域日本語教室、外国人ネットワーク等を活用した周知活動が考えられる。
- ・外国人コミュニティや様々な活動、イベント等で口伝えに情報を広める。

◆保護者/地域の協力

- ・PTA関連事業に県立夜間中学担当者が出向き、本校について説明する機会を設けることができるのではないかな。

◆その他

- ・メディア（テレビ、ラジオ、SNS等）を活用し、多様な世代に対応した情報提供を検討するとよい。
- ・公共機関、交通機関、ハローワーク等で、まずは「学校説明会を実施する」ということ広く周知していく必要がある。

今後の学校体制づくりにおける連携の充実

◆学校関係

- ・総合的な学習の時間やキャリア教育等で地元企業と連携できるとよい。
- ・栃木市の「栃木未来アシストネット事業」（ボランティア人材バンク）を活用し、授業支援ボランティアを要望することも可能である。
- ・栃木市の高校生が中学生向けに行っている「出前授業」を県立夜間中学でも実施できるとよい。
- ・学校運営協議会を設置する場合、多様な学びの場の支援団体が入るとよい。

◆学び直しの支援

- ・フリースクール、不登校親の会、保護者ネットワーク等と連携していく。
- ・県内には多様な学びの場がたくさんあるので、まずは、支援団体と県立夜間中学がつながることが重要である。（担当者が決まっているとよい。）

◆日本語支援

- ・通訳ボランティアや支援団体を募集するとよい。
- ・関係機関が連携・協力して、教員対象の日本語指導研修を実施するとよい。

◆保護者/地域の協力

- ・栃木市の環境を生かし、人や自然に触れる活動を通じた連携ができるとよい。
- ・地域の特性を考慮し、保護者や地域の方の理解・協力を得ることが重要だ。

◆その他

- ・学びの支援、心理的な支援、医療・福祉的な支援から想定する関係機関を掘り起こしていくことが必要である。
- ・県立夜間中学の設置理念、経営方針、目標等を様々な異なる役割をもつ組織・機関と共有することで、多様な学びの場とのネットワークが構築されていく。また、充実を図るためには、コーディネーターの設置が必要である。